



最近よく聞く
「インクルーシブ教育」って何？



インクルーシブ教育とは

学生ひとりひとりが多様であることを前提に、障がいの有無に関わらず、自分に合った配慮を受けながら学べることを目指す教育理念と実践プロセスのことを、インクルーシブ教育といいます。それは、「ひとりひとり丁寧に」と「みんなで一緒に学ぶ」の両方の実現を目指すことといえます。英語ではinclusiveと表記され、「包括的な」「包み込む」という意味です。障がいの有無によって学ぶ場所が分けられるのではなく、ひとりひとりそれぞれの学生の能力や困りごとが考慮された、すべての学生のための教育という意味で使われています。

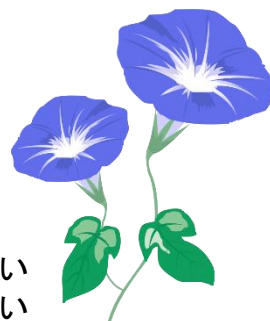
そして、多様性を認めることは、他者のためでもあり同時に、自分のためでもあります。要するに、異なる環境で育ってきた人の意見や価値観をきっかけに、未知の分野に触れて新しい知識を得たり、わからないことを調べる中で、自分の意見をもって、自分をよりよく理解することができるようになるという意味で自己理解にもつながります。

特別修学サポートルームでは

ひとりひとりの学生が生き生きとしたキャンパスライフを送り、多様化する学生のニーズに対応した支援に努めています。発達障がい・精神障がい・肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・病弱など、学生生活の中で様々な困難（修学上の問題や対人関係の問題、進路関係など）を抱えている学生のサポートをします。

発達障がいの学生の特徴として

- ・スケジュール管理ができずに学習が進められない
- ・課題提出締め切りに間に合わない
- ・実験や実習の手順がわからない。器具の操作がうまくいかない
- ・整理整頓ができずに、忘れ物が多い
- ・ノートを取ることに時間がかかる。手書きでノートを取ることが難しい
- ・ゼミやサークルで先生や学生とのコミュニケーションがうまくいかない
- ・予測できないことがあると対応できない



などが挙げられます。

特別修学サポートルームで行っている支援の概要は、次のとおりです。

- ・本人の困り感に寄り添い、どのようなことができるかを一緒に考える
- ・自己管理能力（症状や特性に対する理解・生活リズムの管理・ストレスの管理など）の相談
- ・レポート提出や授業出席の確認
- ・ノートテイク（PC・手書き）支援など
- ・合理的配慮を行う相談と手続き

合理的配慮の例

- ・実技・実習における配慮
- ・講義録音
- ・定期試験における別室受験、時間延長
- ・課題等提出締め切り期限の延長
- ・非対面授業の提供
- ・物理的環境への配慮や整備
- ・教室内座席配慮
- ・ノートテイク、パソコンノートテイク など

障がいのある学生への支援に、完璧な支援というものはありません。検討を重ねて、最善と思うやり方を行っても、その人の状況や状態も変わってきますので、再度検討し直す必要が出てくる場合があります。

詳しくは、新潟大学HP「国立大学法人新潟大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程における注意事項」別添1及び別添2をご覧ください。

URL : <https://www.iess.niigata-u.ac.jp/ssc/pdf/ryuijikou.pdf>

(新潟大学HPトップページ > 大学案内 > 新潟大学について > 公表事項 > 組織(法人)関連情報)

規程↓



留意事項↓



※ただし、合理的配慮は卒業や単位取得を保証するものではありません。

なお、支援には「Boa Sorte (ボア・ソルチ)」の皆さんの力も大きいです。

「Boa Sorte (ボア・ソルチ)」学生ボランティア (ピアサポート) とは

ピア (peer) とは (仲間) という意味で、ピア・サポートは快適なキャンパス・ライフを過ごすための学生同士のサポート活動です。ノートテイクもピア・サポートのひとつです。聴覚に障がいのある学生に授業等での音声情報を手書きやパソコンを使って文字にして伝える通訳のようなサポートです。有償ボランティアです。

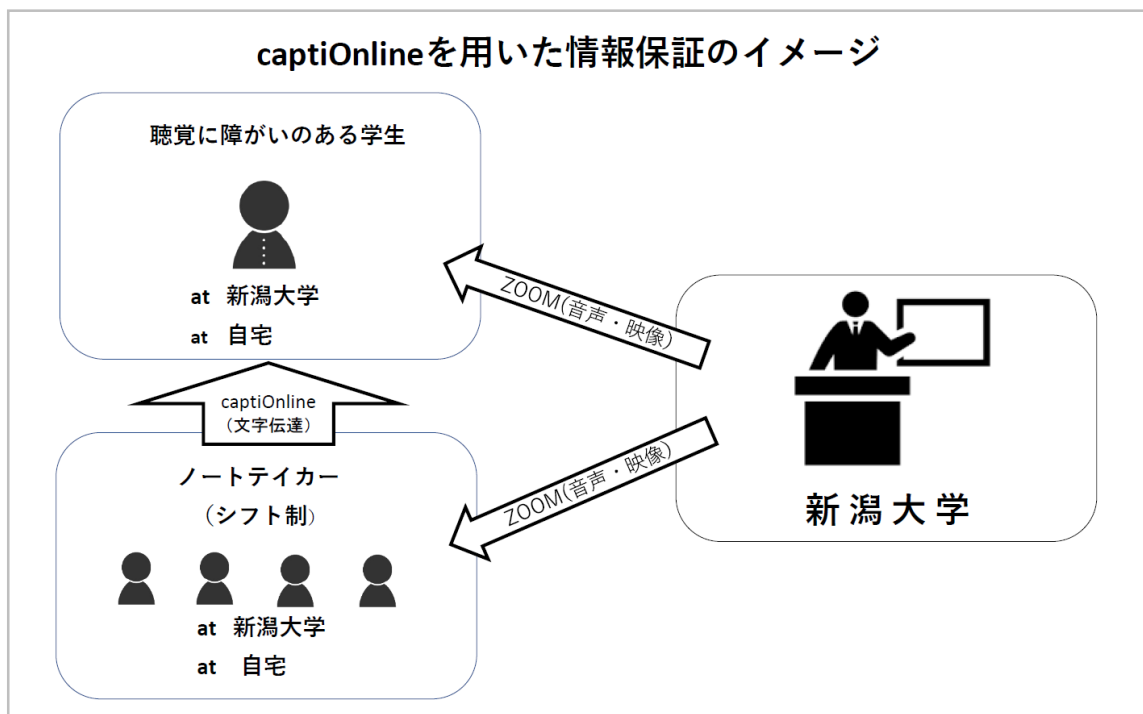
今年度は、主にwebシステム (captiOnline) 上でつながり、情報保証を行っています。



Boa Sorte

(ボア・ソルチ) は、ポルトガル語で「幸運を祈ります」「がんばって」「幸せが訪れますように」の意味があります。

captiOnlineを用いた情報保証のイメージ



どれくらいの方が支援を受けているの？

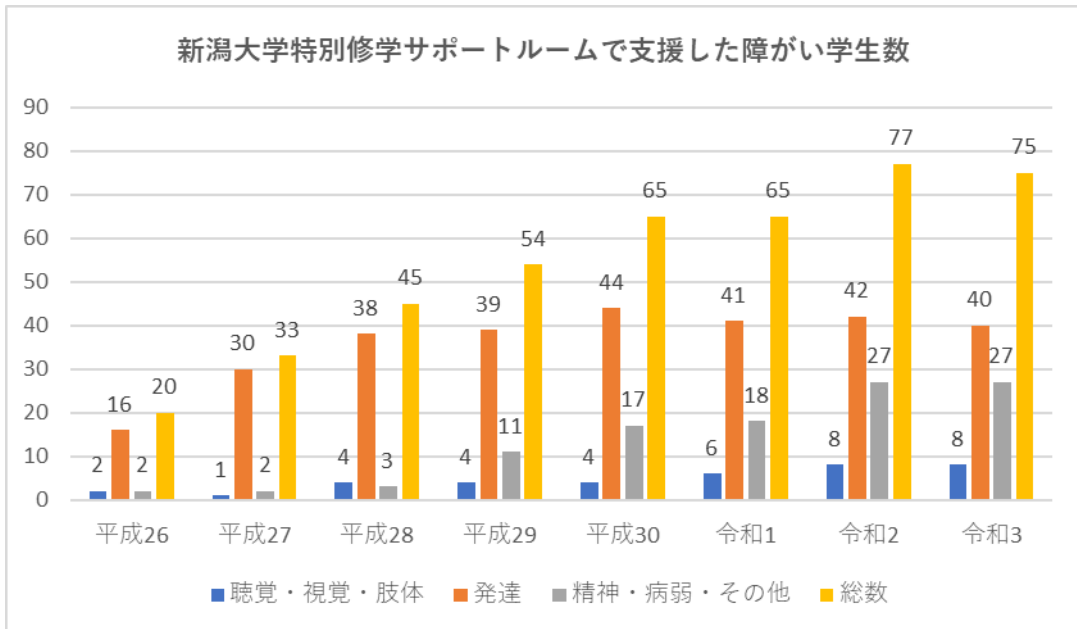


令和3年度支援状況

下のグラフは、特別修学サポートルームが開設されてからの年次ごとの支援学生数です。昨年度は横ばいですが、総じて総数が増加しています。これは、特別修学サポートルームの存在が周知されてきた結果であると思います。今後も増加していくと予想しています。今年度は対面授業も増えてきて、様々な困難さを訴えてくる学生が多くなっています。（令和4年7月末現在：総数63件）

精神・病弱・その他には、パニック障害・うつ病・不安症状・聴覚過敏・双極性障害・PTSD・自律神経失調症・睡眠障害・摂食障害・統合失調症などがあります。

発達障がいと精神疾患との重複の学生も含まれています。発達障がいから精神疾患を患う人もいます。二次障害を発症する前に、発達障がい疑われる人たちを早期に支援できるとよいと考えます。



特別修学サポートルームでは、障がい（発達・精神・身体等）があり、修学を中心に大学生活の中での様々な困難を抱えている学生のサポートをします。一人で悩まず、何でも相談にきてください。（下記に電話かメールでご連絡ください。）



特別修学サポートルーム

総合教育研究棟

☎ : 025-262-6300

(平日9:00~17:00)

✉ : support-r@ge.niigata-u.ac.jp